

ServerView Resource Orchestrator V3.1

ネットワーク構成情報ファイル 作成ツール

まえがき

本書の目的

本書は、ServerView Resource Orchestrator Cloud Edition(以降、本製品)のネットワーク構成情報ファイル作成ツール(Excel形式)(以降、本ツール)の利用方法について説明しています。

本書の読者

本書は、本製品を導入する管理者を対象にします。

また、システムを構築するにあたり、導入するサーバやストレージ、ネットワーク機器の基本的な設定方法を理解していることを前提とします。

本書の構成

本書は、以下の構成になっています。

見出し	内容
第1章 概要	本ツールの概要について説明します。
第2章 動作条件	本ツールの動作条件について説明します。
第3章 ボタン/シート説明	本ツールのボタン/シートについて説明します。
第4章 操作手順	本ツールの操作手順について説明します。
第5章 メッセージ一覧	本ツールで出力するメッセージについて説明します。
第6章 注意事項	本ツールを使用する上での注意事項について説明します。

本書の表記について

本書中の表記方法は以下のとおりです。

- ・ 参照先は「」でくります。
- ・ 画面名、ダイアログ名、メニュー名およびタブ名は[]でくります。
- ・ ボタン名は<>または[]でくります。
- ・ メニューの選択順を[]-[]の形式で示します。
- ・ ユーザーが入力する文字は太字で示します。
- ・ 可変部分は斜体で示します。
- ・ 特に強調が必要な文字列、数値をダブルクォーテーション(")でくります。
- ・ メニュー名には、設定、操作画面の起動を示す"... "は表記しません。

関連マニュアル

以下のマニュアルを必要に応じて参照してください。

- ・ ServerView Resource Orchestrator V3.1 Cloud Edition リファレンスガイド (コマンド/XML編)

略称

本書中の略称は以下のとおりです。

略称	製品
Excel	Microsoft(R) Office Excel(R) 2010 Microsoft(R) Office Excel(R) 2007 Microsoft(R) Office Excel(R) 2003
Excel 2010	Microsoft(R) Office Excel(R) 2010
Excel 2007	Microsoft(R) Office Excel(R) 2007
Excel 2003	Microsoft(R) Office Excel(R) 2003

輸出管理規制表記

当社ドキュメントには、外国為替および外国貿易管理法に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

商標について

- Microsoft、Windows、Windows XP、Windows Server、Windows Vista、Windows 7、ExcelおよびInternet Explorerは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- ServerViewは富士通株式会社の登録商標です。
- その他の会社名および製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。

お願い

- 本書を無断でほかにも転載しないようお願いします。
- 本書は予告なしに変更されることがあります。

2012年6月 第1版

Copyright 2011-2012 FUJITSU LIMITED

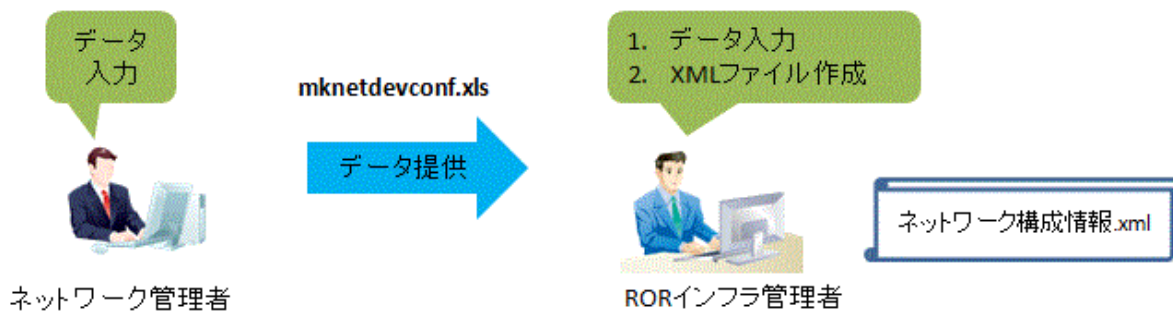
目次

第1章 概要.....	1
第2章 動作条件.....	2
第3章 ボタン/シート説明.....	3
3.1 ネットワーク機器管理表シートへの入力.....	3
3.2 ケーブル結線表シートへの入力.....	4
3.3 結線情報シートへの入力.....	5
3.4 Cisco CatalystのifNameシート以降のシート.....	5
第4章 操作手順.....	6
4.1 ネットワーク管理者による"ケーブル結線表"シートへの情報入力.....	6
4.2 RORインフラ管理者による"ネットワーク機器管理表"シートへの情報入力.....	6
4.3 RORインフラ管理者による"結線情報"シートの生成作業.....	6
4.4 RORインフラ管理者によるXML出力作業.....	6
4.5 RORインフラ管理者によるネットワークデバイス操作.....	6
第5章 メッセージ一覧.....	7
第6章 注意事項.....	9
6.1 LANスイッチブレードとの結線情報作成時の注意事項.....	9

第1章 概要

本ツールは、ネットワーク管理者が入力したネットワーク構成情報(管理情報および物理結線情報)を基に、RORインフラ管理者がネットワーク機器情報のXMLファイル作成を支援するツールです。

以下に本ツールの使用イメージを示します。



第2章 動作条件

本ツールはMicrosoft Excel上で動作します。

以下のバージョンのExcelが必要です。

- Excel 2003
- Excel 2007
- Excel 2010

動作OSは以下の製品バージョンになります。

- Windows XP
- Windows Vista
- Windows 7

本ツールでは入力を支援するマクロが含まれています。Excelでマクロを有効にするために、以下の手順でExcelのセキュリティ設定を変更してください。

- Excel 2003を利用する場合

Excel 2003では、以下の操作でセキュリティレベルを変更できます。

1. Excelのメニューから[ツール(T)]-[オプション(O)]を選択します。[オプション]ダイアログが表示されます。
2. [セキュリティ]タブを選択し、<マクロセキュリティ(S)>ボタンをクリックします。[セキュリティ]ダイアログが表示されます。
3. セキュリティレベルを"高"以下に変更し、<OK>ボタンをクリックします。
4. ツール(mknetdevconf.xlt)を開き、その際に表示される[セキュリティの警告]ダイアログで作成者などの詳細を確認したあと、"この作成者のマクロを常に信頼する(A)"のチェックボックスをチェックして、<マクロを有効にする(E)>ボタンをクリックします。

- Excel 2007を利用する場合

あらかじめ以下の手順でセキュリティセンターのマクロを設定しておいてください。

1. Microsoft Officeボタンをクリックし、[Excel のオプション]を選択します。
2. 表示されたダイアログで[セキュリティセンター]-[セキュリティセンターの設定]-[マクロの設定]を選択します。
3. "マクロの設定"に表示されるマクロのセキュリティ設定の中から、"デジタル署名されたマクロを除き、すべてのマクロを無効にする(G)"を選択し、<OK>ボタンをクリックします。
4. ツール(mknetdevconf.xlt)を開き、ツールバーの下に表示される"セキュリティの警告"の<オプション>ボタンをクリックします。
5. 署名を確認し、"この発行者のドキュメントをすべて信頼する"のチェックボックスをチェックし、<OK>ボタンをクリックします。

- Excel 2010を利用する場合

あらかじめ以下の手順でセキュリティセンターのマクロを設定しておいてください。

1. [File]タブをクリックし、[ヘルプ]の[オプション]を選択します。
2. 表示されたダイアログで[セキュリティセンター]-[セキュリティセンターの設定]-[マクロの設定]を選択します。
3. "マクロの設定"に表示されるマクロのセキュリティ設定の中から、"デジタル署名されたマクロを除き、すべてのマクロを無効にする(G)"を選択し、<OK>ボタンをクリックします。
4. ツール(mknetdevconf.xlt)を開き、ツールバーの下に表示される"セキュリティの警告"の<マクロが無効にされました>ボタンをクリックします。
5. 表示されたダイアログで[コンテンツの有効化]-[詳細オプション]を選択します。署名を確認し、"この発行者のドキュメントをすべて信頼する"のチェックボックスをチェックし、<OK>ボタンをクリックします。

第3章 ボタンシート説明

3.1 ネットワーク機器管理表シートへの入力

RORインフラ管理者が登録するネットワーク機器の管理情報を入力してください。

各項目についての入力可能な値については、セルのコメント欄を参照してください。

- ・ 入力可能項目
 - － 選択
 - － レコード種別
 - － 管理IPアドレス
 - － 管理LANのサブネットマスク
 - － 管理LANのVLANID
 - － アプライアンス種別
 - － 機器名(名称)
 - － ロケーション
 - － 種別情報
 - － 保守モード
 - － ネットワークデバイスへの自動設定
 - － ベンダー名
 - － 装置名(製品名)
 - － モデル名
 - － グループID
 - － コミュニティー名
 - － 認証情報の管理方法
 - － プロトコル
 - － 管理者権限
 - － アカウント確認
 - － 接続先IPアドレス
 - － 接続先ポート番号
 - － テナント名
 - － アカウント
 - － パスワード
 - － 管理者パスワード
 - － パスワードの暗号化
 - － 監視方法
 - － 監視間隔
 - － リトライ回数
 - － タイムアウト

ー Web管理画面URL

• ボタン説明

レコード追加ボタン

レコード行の追加を行います。追加したい行のセルを選択し押下してください。

レコード削除ボタン

レコード行の削除を行います。削除したい行のセルを選択し押下してください。

入力値チェックボタン

シートに入力された値のチェックを行います。

結線情報生成ボタン

結線情報を自動生成し、結線情報シートに出力します。

XMLファイル出力ボタン

XMLファイルを出力します。出力対象のレコードはネットワーク機器管理表シートの選択欄が"有効"のレコードのみ対象となります。XML作成モードはコンボボックスの指定値に従います。

XMLファイル読み込みボタン

XMLファイルを読み込みます。読み込み対象のファイルは、`rcxadm netconfig export`コマンドでエクスポートしたXMLファイルになります。

• コンボボックス説明

ー XMLファイル作成のモード選択をしてください。個別登録/個別変更/一括登録/一括変更が選択できます。



注意

ネットワーク機器管理表シートに対する列の追加/削除は行わないでください。

3.2 ケーブル結線表シートへの入力

ネットワーク管理者は、ケーブル結線表シートへネットワーク構成情報(物理結線情報)を入力してください。

• 入力可能項目

- ー 接続元機器のラック名(No.)
- ー 接続元機器の機種
- ー 接続元機器の機器名(名称)
- ー 接続元機器のポート
- ー 接続先機器のラック名(No.)
- ー 接続先機器の機器名
- ー 接続先機器の機種
- ー 接続先機器のポート
- ー ケーブル種別



注意

ケーブル結線表シートに対する列の追加/削除は行わないでください。

ケーブル結線表シートに行を追加/削除する場合は、Excelの行の挿入/削除の操作でできます。

3.3 結線情報シートへの入力

[結線情報生成ボタン]によって自動生成されるシートです。機器同士のリンク情報が出力されます。

3.4 Cisco CatalystのifNameシート以降のシート

装置ビューとifNameの関係を示しています。ケーブル結線表シートのポート情報を入力する際の参考にしてください。

第4章 操作手順

4.1 ネットワーク管理者による"ケーブル結線表"シートへの情報入力

各項目の入力作業を行います。

結線の情報は、接続元と接続先で両方向を入力してください。

4.2 RORインフラ管理者による"ネットワーク機器管理表"シートへの情報入力

各項目の入力作業を行います。

機器名(名称)は、"ケーブル結線表"シートで入力した機器名(名称)と同じ名前を入力してください。

入力完了後、一括作成/一括変更の場合は[4.3 RORインフラ管理者による"結線情報"シートの生成作業](#)へ、個別作成/個別変更の場合は[4.4 RORインフラ管理者によるXML出力作業](#)の作業を実施します。

4.3 RORインフラ管理者による"結線情報"シートの生成作業

"ネットワーク機器管理表"シートの[結線情報生成ボタン]を押下し、"結線情報"シートを自動生成します。

4.4 RORインフラ管理者によるXML出力作業

"ネットワーク機器管理表"シートの[XMLファイル出力ボタン]を押下し、xmlファイルを出力します。

4.5 RORインフラ管理者によるネットワークデバイス操作

作成されたXMLファイルを利用して、ネットワークデバイスを操作します。

- ・ 個別作成/個別変更の場合、rcxadm netdeviceコマンドを使用します。
- ・ 一括作成/一括変更の場合、rcxadm netconfigコマンドを使用します。

第5章 メッセージ一覧

本ツールが画面出力するメッセージの説明をします。

XMLファイルを出力しました。

利用者対処

なし。

パラメタチェックが正常に終了しました。

利用者対処

なし。

リンク情報の自動生成が終了しました。

利用者対処

なし。

同一ファイル名が存在します。継続しますか？

利用者対処

「はい」または「いいえ」ボタンを押してください。

ファイル出力がキャンセルされました。

利用者対処

なし。

デバイス情報(netdevice/NSAppliance)が選択されていません。

利用者対処

デバイス情報を選択してください。

「個別登録」または「個別変更」を選択した場合、「選択」メニューで「有効」にできるデバイスは1つのみです。

利用者対処

1つのデバイスだけ選択してください。

シートに入力したパラメタに誤りがあります。誤りがあるセルを赤色で示します。

利用者対処

赤くなったセル部分に正しいパラメタを入力してください。

リンク情報の生成に失敗しました。理由:ケーブル結線表にリンク情報が存在しない。接続元機器名:device1

利用者対処

"ケーブル結線表"シートに、"ネットワーク機器管理表"シートに入力しているデバイスの物理結線情報を追加してください。なお、結線情報は、接続元と接続先で両方向を入力する必要があります。

"ネットワーク機器管理表"シートに入力しているデバイス情報が不要の場合、選択欄は(**無効**)を選択してください。または、デバイス情報を削除してください。

リンク情報の生成に失敗しました。理由:ネットワーク機器管理表に接続相手のデバイス情報が存在しない。又は選択されていない(**無効**)。接続元機器名:device1 接続先機器名:device2

利用者対処

"ケーブル結線表"シートで入力したデバイス(機器名)は、"ネットワーク機器管理表"シートにデバイス情報として入力する必要があります。

"ネットワーク機器管理表"シートで選択欄は(**無効**)を選択してください。または、"ネットワーク機器管理表"シートに情報が無い場合はリンク相手のデバイス情報を追加してください。

"ケーブル結線表"シートで入力したデバイスの物理結線情報が不要の場合、削除してください。

Excelシートの全情報がクリアされます。続きますか?[注意]"いいえ"を選択した場合は中止します。

利用者対処

Excelシートの情報が必要な場合は、"いいえ"を選択してファイルを保存してください。

指定したファイル"filename"が存在しません。

利用者対処

正しいファイルを指定してください。

"filename"の形式が不正です。

利用者対処

正しいファイルを指定してください。

第6章 注意事項

6.1 LANスイッチブレードとの結線情報作成時の注意事項

結線情報作成時に、接続相手がLANスイッチブレードの場合、以下の手順でXMLファイルを生成します。

1. "ケーブル結線表"にLANスイッチブレードの"機器名"、"ポート"を入力します。
2. "ネットワーク機器管理表"にLANスイッチブレードを設定します。このとき、"レコード種別"は"netdevice"を選択し、"管理IPアドレス"および"機器名"を入力します。
3. "結線情報生成"ボタン押下時には、LANスイッチブレードの"選択"欄は"有効"を選択します。
4. "XMLファイル出力"ボタン押下時には、"選択"欄は"**無効**"を選択します。

また、RORよりエクスポートしたXMLファイルのネットワークデバイス情報には、LANスイッチブレードは含まれていません。このため、"XMLファイル読み込み"時には、ネットワーク機器管理表"に、LANスイッチブレードの情報を追加してください。